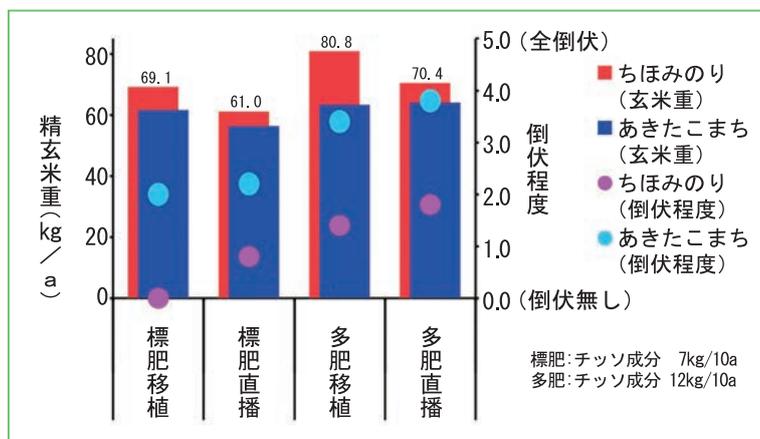


早生で多収の直播栽培向き 良食味水稻新品種「ちほみのり」

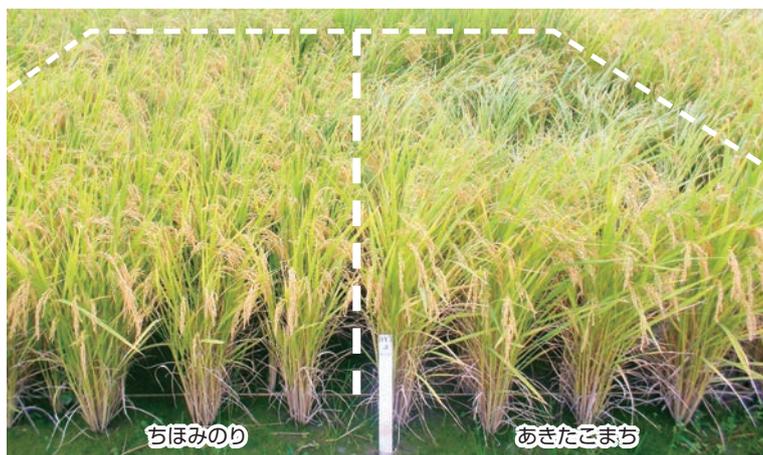
米価が下落を続けている状況の中で、一層の経営規模拡大や所得向上を図るためには、一定水準の食味・品質を有し収量性が向上した品種の導入が重要です。あわせて、栽培の省力・低コスト化に対応できるよう直播栽培に適した品種が必要です。そこで、中生で直播栽培に適した多収・良食味系統「奥羽382号（のちの「萌えみのり」）」を母、早生で多収・良食味系統「青系157号」を父として交配を行い、寒冷地において、耐倒伏性に優れ、多収で良食味の特性を有し、直播栽培にも適した水稻新品種「ちほみのり」を育成しました。

《「ちほみのり」の特徴》

「ちほみのり」の出穂期、成熟期は「あきたこまち」よりやや早く、稈長は短いです（表）。稈長が短いため、移植栽培、直播栽培いずれにおいても「あきたこまち」より明らかに倒伏が少ないです（図、写真）。「ちほみのり」の精玄米重



図／「ちほみのり」の栽培条件ごとの収量および倒伏程度 (2012年～2013年、秋田県大仙市)



写真／「ちほみのり」の直播栽培における草姿 (2013年、標肥表面条播)

水田作研究領域

太田久稔

OHTA, Hisatoshi



は、移植栽培、直播栽培で行った標肥栽培・多肥栽培において、いずれも「あきたこまち」より多収です（図）。「ちほみのり」のいもち病抵抗性は「あきたこまち」より強く、葉いもち抵抗性は“強”、穂いもち抵抗性は“やや強”です（表）。「ちほみのり」玄米の外観品質と炊飯米の食味は「あきたこまち」と同等です（表）。

《栽培上の注意点》

耐冷性は「あきたこまち」と同等のため、冷害の発生しやすい地域での栽培は避けてください。また、倒伏のおそれがあるので極端な多肥栽培は避けてください。

《今後の予定》

秋田県大潟村では平成27年から本格的な生産を開始する予定です。また、北東北地域での中生の「萌えみのり」は、出穂が遅く成熟しない可能性が高いため栽培が難しいですが、早生の「ちほみのり」は出穂が早いため、北東北地域での鉄コーティング直播栽培や乾田直播栽培が可能です。今後、直播栽培の普及に貢献することが期待されます。

表／「ちほみのり」の栽培特性 (2009年～2013年)

品種名	ちほみのり	あきたこまち
出穂期(月・日)	7.28	7.31
成熟期(月・日)	9.11	9.13
稈長(cm)	76	89
穂数(本/m ²)	473	451
耐倒伏性	強	やや弱
いもち病抵抗性	葉いもち 強 穂いもち やや強	中 やや弱
耐冷性	中	中
精玄米重(kg/a)	69.3	62.5
玄米重標準比(%)	111	100
玄米千粒重(g)	23.3	22.6
玄米外観品質	上中	上中
炊飯米食味	上中	上中